

北九州市立大学 都市政策研究所ニュース



都市政策研究所 所長異動のお知らせ

北九州市立大学都市政策研究所の所長につきまして、任期満了に伴い岡本博志・法学部教授が2015年3月末をもって退任しました。後任として2015年4月1日から柳井雅人・副学長（経済学部教授）が着任しました。

退任の御挨拶

岡本 博志 前・都市政策研究所長

定年退職に伴い、所長の職も辞することになりました。兼任の所長がどの程度機能していたのかとの思いもありますが、この2年間の皆様のご協力に感謝申し上げます。研究所が学部と異なる点は、学生を抱えていないということです。しかし現在では、所員も学部等や大学院で授業を行うのが当然の状態となっています。今後は「都市政策」について研究と教育を融合することが期待されると思われます。皆様の一層のご活躍とご健勝を祈ります。

着任にあたって

柳井 雅人 都市政策研究所長

私は旧産業社会研究所において数々の調査をお手伝いしておりました。北九州市の産業白書執筆や、日中韓の部品、素材産業の分析のために大連市や仁川市を訪問調査したことは良い思い出です。経済学部、法学部等や九州経済調査協会、福岡大学等との連携もあり、研究所の存在感も大きなものがあつた気がします。研究所の持つ素晴らしいポテンシャルを、他組織との連携を図りながら発揮できるようにお手伝いしていきたいと思ひます。

都市政策研究所 専任教員異動のお知らせ

北九州市立大学都市政策研究所の専任教員につきまして、石塚優教授が2015年3月末をもって定年退職しました。後任として2015年4月1日から深谷裕准教授（前所属：本学・基盤教育センター）が着任しました。

退任にあたって

石塚 優 前・都市政策研究所 教授

誰もが通る道なれど、誰もがあまり気にしない。そんな感慨に耽る暇も余裕もなく部屋の片づけに追われるままに時間が過ぎて行くのでした。

お世話になりながら挨拶もできなかった多くの皆様に非礼お詫びするとともに、厚く御礼を申し上げます。

着任のご挨拶

深谷 ^{ひろい}裕 都市政策研究所 准教授

4月1日付けで都市政策研究所に着任いたしました。北九州市立大学に勤務し始めてからは7年目に入ります。司法福祉や障害者福祉等、主に福祉領域に関心を持ち、研究を進めてきました。人口減少や高齢化の一途をたどっている北九州地域の今後の未来を考えていく上では、福祉的な視点は極めて重要です。誰もが社会参加できる、居心地のよい地域の仕組みづくりに、調査研究を通して貢献できれば幸いです。宜しく願いいたします。

「全国餃子祭り in 北九州」開催に伴う経済波及効果と今後の課題¹⁾

都市政策研究所 准教授 南 博

1. はじめに

地域活性化を目指し、住民や地域団体、行政等が連携して「食」をテーマに開催する集客イベントが全国で広がりを見せている。

こうしたイベントは報道で大きく取り上げられやすく一般的な関心は高まっているものの、開催効果や課題に関する客観的な検証に係る研究の蓄積は十分とは言えない。そのため、イベント効果に対する期待と予測が混在化しがちであり、また、開催効果を大きく引き出すための効果的な方策が十分とられていない懸念もある。これらの懸念に対応する知見を得るためには、様々な事例研究の積み重ねと、それをもとにした理論の構築、政策提言等が必要である。

こうした目的のもと、2014年10月に北九州市八幡東区で開催された「全国餃子祭り in 北九州」(表1)を事例に、来場者アンケート²⁾から得られた来場者実態やイベントに対する評価の分析、および開催に伴う経済波及効果の推計を行った。

本稿ではその結果の一部を紹介する。

2. 来場者の実態およびイベントに対する評価

(1) 来場者の実態等

全国餃子祭り in 北九州の開催された2日間にわたり来場者アンケートを実施し、有効回収1,016サンプルを得た。その主な結果や考察等を以下に示す。

- 年齢構成は多様であり、幅広い世代の来場があった。
- 北九州市内からの来場者が73.7%と大半を占め、県外からの来場者は4.3%であった。筆者が2012年に実施したB-1グランプリ in 北九州での来場者アンケート結果と比較しても全国餃子祭りは狭い範囲から集客し、「主に地元市民に楽しみを提供したイベント」と評価できる。
- 来場のきっかけとなった情報源はチラシ、テレビ、クチコミ等の従来型のものが多いが、市内の各種イベントでの話題性の高い告知活動(学生との協働等)が報道やSNSで取り上げられたことも集客に間接的効果があったと考えられる。
- 近隣商店街でイベントを併催し、商店街との間で回遊性が生まれた。

(2) イベントに対する来場者の評価

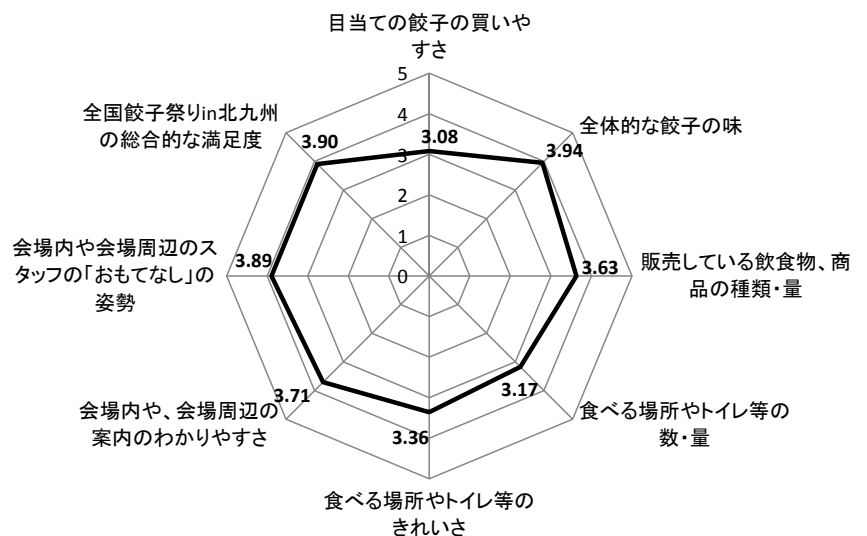
全国餃子祭り in 北九州に関する8つの評価項目を示し、「とても良い」5点、「良い」4点、「普通」3点、「悪い」2点、「とても悪い」1点とした5段階評価の回答結果の項目別平均点を図1に示す。

「総合的な満足度」は3.90ポイントと高評価である。また、最も評価が高いのは「全体的な餃子の味」であり、本イベントの根幹である「餃子を楽しむ」点で高評価であったことは、本イベントを「成功した」と評価できる根拠の一つとも言えよう。

一方、評価が最も低いのは「目当ての餃子の買いやすさ」である。予想を超える多数の来場者があったことにより、各ブースの待ち時間が長くなったこと(最大待ち時間2時間程度)が影響したものと推測される。3.00点を越えているため一定の水準は確保できたと考えられるが、改善の余地はあり、今後のイベント開催時の課題が明らかになった。

表1 全国餃子祭り in 北九州の開催概要

主催	2014全国餃子サミット&全国餃子祭り in 北九州実行委員会	
日程	2014年10月4日(土)、5日(日) 各10:00~15:00	
会場	北九州イノベーションギャラリー芝生広場周辺 (北九州市八幡東区東田地区)	
出展団体	・G10(餃子)ブース : 10団体13ブース ・全国餃子店舗ブース : 17団体17ブース ・ご当地グルメブース : 10団体10ブース ・PRブース : 9団体9ブース	
入場方法	入場無料 ※料理購入時には250~500円支払	
結果	天候	両日とも晴。ただし台風が接近していた。
	来場者数	主催者発表 15.4万人 ※4日(土)6.3万人、5日(日)9.1万人



※「とても良い」5点、「良い」4点、「普通」3点、「悪い」2点、「とても悪い」1点、として算出

図1 全国餃子祭り in 北九州に対する評価の項目別平均点

3. 開催に伴う経済波及効果推計

全国餃子祭り in 北九州開催に伴う経済波及効果について、まず、来場者アンケート結果の費目別一人あたり支出金額（平均消費額）をもとに実態に基づいた直接効果の算定を行った。その上で、北九州市における効果については「北九州市産業連関表（平成 17 年表）」に投入、全国における効果については「平成 17 年全国産業連関表（34 部門別）」をもとに総務省が提供している分析ツールに投入して推計を行った。

直接効果については、来場者による消費活動のみを対象とした。直接効果額の推計結果を表 2 に示す。直接効果額は北九州市内 4 億 8100 万円、全国 5 億 4600 万円と推計される。

直接効果に関し、産業部門別に金額を振り分けた上で産業連関表に投入し、波及効果および総合的な経済波及効果額を推計した結果を表 3 に示す。北九州市への経済波及効果額は約 7 億 5300 万円、全国への経済波及効果額は約 9 億 5400 万円と推計される。

4. 今後の継続的な地域活性化効果発揮に向けて

本研究により、全国餃子祭り in 北九州の来場者の総合的な満足度等が高いことからイベントとしては成功したと評価できること、北九州市及び全国にまとまった規模の経済波及効果をもたらしたと推計されること等を明らかにした。また、課題として、会場周辺や北九州市都心部などには消費者の回遊がある程度見られたものの広域的な観光消費誘発は限定的であったと推定されること、来場者が多かったことに起因する会場混雑や購入待ち時間長期化が来場者満足度を低下させたと考えられること等を明らかにした。

来場者アンケートで得られた満足度や経済波及効

※ ※ ※ ※ ※ ※

表 2 直接効果の推計額

項目		直接効果額（千円）	
		北九州市	全国
来場者による直接的な消費支出	① 全国餃子祭りでの飲食、及び来場に伴う観光等での飲食	¥299,068	¥316,008
	② 餃子祭りや北九州などのおみやげ、グッズ代	¥37,422	¥42,350
	③ 交通費	¥111,034	¥125,048
	④ 宿泊費	¥8,470	¥23,408
	⑤ その他、施設入場料、レジャー費等の支出	¥25,256	¥39,578
合計		¥481,000	¥546,000

表 3 経済波及効果の推計額

範囲	直接効果額（百万円）	波及効果額（百万円）	総合的な経済波及効果額（百万円）
北九州市	481	272	753
全国	546	407	954

果推計で明らかにした効果額は、あくまで一過性のものである。今回のイベントによって生じた機会と可能性を逃さず、市民の日常消費喚起、および来場者による観光消費喚起等をめざして八幡ぎょうぎの魅力を高める事業展開を民間主体で継続的に取り組むことによって、イベント開催地（八幡）および市内全域に持続的な経済効果を生み出すことが期待される。その推進に際し、必要に応じ効果的な政策支援を行うことも視野に入れるべきである。

- 1) 本稿は南博（2015）「食」をテーマとした集客イベントの地域活性化効果の検証－「全国餃子祭り in 北九州」を事例として－、『都市政策研究所紀要』Vol.9, pp.99-124.に基づく。
- 2) 筆者は同イベントの主催者である 2014 全国餃子サミット&全国餃子祭り in 北九州実行委員会実施本部から依頼を受け、客観的立場から公式来場者アンケート調査を実施した。

都市政策研究所 事業日誌（2015 年 1 月～3 月）

■研究会、調査など

- ・[調査、工場診断] ベトナム・ハイフォン市（環境保全に関する調査等）（1/18～22、3/1～7、3/19～22）【吉村】
- ・[調査] イギリス・コッツウォルズ地域（フットパスに関するヒアリング及び現地調査）（2/5～10）【内田】
- ・[調査] ジャカルタ（バス基幹輸送システムに関するヒアリング及び現地調査）（3/5-8）【内田】
- ・[調査] Jリーグクラブに関する北九州市民意識調査（3月）【南】

■講演・シンポジウムなど

- ・[講演] 地域づくりネットワーク福岡県協議会北九州ブロック会議（1/24、岡垣町）【内田】
- ・[講演] 北九州市「地域特性を活かした福岡県北東部地域の連携～新たな広域連携に向けての課題と可能性～」（2/3）【南】

■報道（専任教員のコメント掲載・放送など）

- ・全国餃子祭り in 北九州開催に伴う経済波及効果推計結果に関する報道（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞 各 3/3 付け）【南】

■その他

- ・[受賞] ベトナム・ハイフォン市「ハイフォン市表彰」【吉村】

2015年3月発行 都市政策研究所刊行物のご紹介

■『都市政策研究所紀要』第9号 石塚優教授退職記念号

- ・石塚優教授退職記念号の発刊にあたって（岡本博志）
- ・北九州産業社会研究所に採用された幸運（石塚優）
- ・社会保障の社会学（久塚純一）
- ・介護保険制度に関する展望 介護給付費、介護保険料に関する予測（友添吉成）
- ・配偶者が犯罪加害者になった女性たちの心理社会的経験—緊張と喪失（深谷裕）
- ・ベトナム・ハイフォン市におけるクリーナープロダクション普及の現状と展望（吉村英俊）
- ・合併過疎自治体における過疎債と特例債の発行要因（宮下量久）
- ・フリーフロート型カーシェアリングの展開可能性に関する基礎的考察（内田晃）
- ・「食」をテーマとした集客イベントの地域活性化効果の検証—「全国餃子祭り in 北九州」を事例として—（南博）

■『地域課題研究』2014年度

- ・ベトナム・ハイフォン市の裾野産業育成に向けたクリーナープロダクション導入可能性に関する基礎的研究（吉村英俊、田辺晃、宮下量久）
- ・地方都市における市街地型フットパス導入に向けた課題と方策（内田晃）
- ・北九州市内のアーケード商店街を対象としたテナントの入居状況に関する調査（徳田光弘、片岡寛之ほか）
- ・北九州の旧五市合併が財政の効率性に与えた影響（宮下量久）

■地域課題研究別冊 『「地域づくり」に関する調査研究』

- ・人口減少と地域の課題（石塚優）
- ・行動経済学による「消費者力」の涵養（2）～「生活を守る経済学」講演シナリオを通じて～（神山和久）

■地域課題研究別冊 『北九州における集客イベントの効果と展望』

- ・北九州マラソン2014開催に伴う経済波及効果（南博）
- ・ギラヴァンツ北九州の2014年スタジアム観戦者の現状分析（南博）
- ・2015年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州に対する市民意識（南博）
- ・スポーツのキャンプ等誘致によるスポーツ文化普及・シティプロモーションの可能性とメディア対応のあり方（上田真之介）

■『関門地域研究』第24号（発行：関門地域共同研究会）

- ・再生可能エネルギー普及に関わる地域的問題：メガソーラー設備設置をめぐる景観保全・利害調整問題をを中心に（山川俊和、藤谷岳）
- ・新たな広域連携モデル構築事業にみる自治体連携の分析：序論—下関市・北九州市、備後圏域、高梁川流域圏、宮崎広域圏の事例から—（水谷利亮）
- ・関門地域における公共施設の相互利用に関する調査研究：施設の管理運営者の観点を中心として（宮下量久）

2014年度 受託研究実績（都市政策研究所実施分）のご紹介

- ◆2014シーズン・Jリーグスタジアム観戦者調査業務
- ◆北九州ひとみらいプレイスの今後の方向性の提案業務委託
- ◆室町1丁目再開発事業の波及効果に関する研究委託業務
- ◆分譲マンション管理組合実態調査報告書作成業務委託
- ◆「関門地域経済戦略会議」の運営業務
- ◆関門地域の公共施設・サービス等の調査・研究
- ◆北九州地域の公共施設・サービス等の調査・研究
- ◆北九州地域の広域的な交通課題に関する調査・分析
- ◆ハイフォン市鋳造工場への日本製技術導入可能性調査業務
- ◆ハイフォン市における工場へのクリーナープロダクション導入調査
- ◆ハイフォン市鋳造工場へのベトナム国補助金の適用可能性調査における現地データ収集業務
- ◆平成26年度IGES戦略基金活用による都市サービスの財務分析の基礎調査業務：公共交通サービス分野

第8回 都市政策研究所 研究報告会のお知らせ

2014年度に実施した地域課題研究等の主な成果について、研究報告会を開催いたします。ご来場いただけますと幸いです。

日時： 2015年4月21日（火）14:00～16:30

会場： 西日本総合展示場新館（AIMビル）3F 315会議室（北九州市小倉北区浅野3-8-1）

報告予定内容（順序未定）： ※近日中に本研究所Webサイトに確定情報を掲載予定

- ◆北九州の旧五市合併が財政の効率性に与えた影響（宮下量久）
- ◆北九州における集客イベントの効果と展望～北九州マラソン、全国餃子祭り、ギラヴァンツ北九州～（南博）
- ◆フリーフロート型カーシェアリングの展開可能性（内田晃）
- ◆ベトナム・ハイフォン市の裾野産業育成に向けたクリーナープロダクション導入可能性（吉村英俊）

お申し込み、お問い合わせ： 都市政策研究所事務室（下記ご参照）

[編集・発行]

公立大学法人

北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1

Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300

E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp

URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

NEWSLETTER No.72

April 1, 2015

INSTITUTE FOR URBAN
AND REGIONAL POLICY STUDIES,
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,
KITAKYUSHU CITY, JAPAN